

美術部会 研究の構想（案）

平成 25 ～ 27 年度

I 研究主題

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

これまで美術部会では、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習活動に重点を置き研究を重ねてきた。平成24年度までの3年間は、自らを表現する生徒の育成を目指し、〔共通事項〕や美術文化の継承、そして心の教育をキーワードに研究に取り組んだ。さて、学習指導要領における美術科の目標は三つの視点から捉えることができる。

1 美的、造形的表現・創造

美術の表現及び鑑賞の全過程を通して、創造活動の喜びや自己肯定感を感じることができるよう指導することが求められている。生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具体化できるようにしたり、主体的によさや美しさを感じ取ることができるようになり、生徒の実態を踏まえて、幅広く題材を考え、指導過程を工夫することが重要である。

2 文化・人間理解

よさや美しさなどを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識をもって批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくことができるように言語活動を生かした指導を充実させることが求められている。さらに日本をはじめ、諸外国の美意識や創造的な精神を感じ取ることのできる学習を工夫していく必要がある。

3 心の教育

精神的な充足を求める現代の社会において、豊かな情操を養うことの重要性が改めて問われている。表現や鑑賞活動に主体的に取り組み、自らの生きる意味や価値観をもち、自分にしかない価値をつくる意欲をもたせることが重要である。

これらを踏まえた上で、継続してこの研究主題を設定し、「豊かな感性の育成を目指して」を副題に、3か年計画で主題解明に迫る。美術科で育成する感性は、様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなすものである。混迷する現代の社会においては、感性を育成することが大きな意味をもち、豊かにたくましく生き抜く力となると考える。一つの正答を求めない美術科としての役割が担うものは大きい。表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心をもつ生徒の育成につながるよう具体的に取り組んでいきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めるための指導計画、指導方法、評価の工夫・改善に努める。25年度より3年間にわたり、豊かな感性の育成を目指すことで研究主題の解明に迫りたい。

2 研究内容

(1) 美術科の内容に関する研究

・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる指導内容の工夫

(2) 指導計画・指導方法に関する研究

・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる指導計画の作成

・生徒が主体的に取り組む指導方法の工夫

・基礎的・基本的な内容や技能の定着を図る指導方法の工夫

(3) 評価に関する研究

・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる評価の工夫

・指導の改善に生かす評価の工夫

美術部会 平成 26 年度研究計画 (案)

I 研究主題

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習指導はどうあればよいか。

— 豊かな感性の育成を目指して —

II 主題について

平成24年度までの3年間は、「自らを表現する生徒の育成」を目指し、

・学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた学習過程の工夫

・〔共通事項〕の視点を踏まえた、表現と鑑賞における言語活動の充実とその効果

について、研究の構想をもとに視点を明確にし、意欲的に研究を積み上げることができた。同時に、主題を明確にし、発想し構想を広げ、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めるために、豊かな感性を育てる研究に取り組む必要性を感じた。

25年度から3年間は、「豊かな感性の育成」を目指して、発想や構想の能力をいかに伸ばし、どのように表現に生かすか、そして作品の鑑賞を通して、豊かに感受する力をいかにして育成するかについて研究を進めている。1年目は、導入段階の鑑賞活動、ワークシートや話し合い活動の工夫等により、「主題を生み出し、構想を練ること」について研究を深めることができた。2年目は、「主題を基に表現を工夫すること」、3年目は、「主題や表現の工夫について感じ取り、話し合う鑑賞」について取り組み、主題解明につなげていきたい。

本年度は、「主題を基に表現を工夫すること」を視点に研究を推進していく。主題を基に表現を工夫するには、発想や構想と、それを表現する技能を関連付けながら指導することが重要である。例えば表現活動の中で、生徒が主体的に表現方法を選択したり、試行錯誤しながら創意工夫したりすることができるようにする指導が考えられる。その際、表現と鑑賞の相互の関連を図り、鑑賞することで表現の能力がより高められるよう配慮することも必要である。また、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えながら見通しをもって表現したりする技能の指導についても研究していきたい。

複雑な情報があふれる現代の社会において、子どもたちは、じかに見たり感じたりといった体験が少なくなっていると言われる。自然や身の回りの事象、日常生活及び心の世界などを深く見詰め、感性を育むことは、真実や意味、新たな価値等の発見や認識、感動、知的好奇心、新たな発想やイメージ、想像力等を湧出していく上で極めて重要である。そのことが、社会を自らの手で切り拓き、心豊かな生活を創造していく意欲と態度の育成につながると考え、研究を進めていきたい。

III 研究内容とその視点

1 美術の表現及び鑑賞の内容に関する研究

(1) 主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、自己の夢や目標を持ち、自己肯定感を高め、自己実現を目指す態度を育むための課題を工夫する。

・自己の現在及び未来への願いや、現在の生活や社会の問題を改善していく方策を形、色、材料によって可視的なものに表現する内容

(2) 生徒が自分の表現意図をしっかりと持ち、それを色や形に表現できるよう、様々な表現形式や技法、材料等に触れさせ、表現意図に応じて選択し表現できる内容を工夫する。

・表現形式や技法等の指導

・スケッチの活用

・映像メディアの活用

・多様な表現方法の活用

- (3) 互いの個性を生かし合い、協力して創造する喜びを味わわせるための共同で行う創造活動を工夫する。
 - ・一人一人の持ち味を生かした課題や題材
 - ・学級やグループによる役割分担
 - ・互いの思いについて話し合い、よさを認め合うなど言語活動を生かした制作
- (4) 日本及び諸外国の児童生徒の作品、地域の美術館や博物館等の施設を積極的に活用した内容を工夫する。
 - ・日本及び諸外国の多様な年齢層の作品の鑑賞
 - ・作家や学芸員との連携
 - ・総合的な学習の時間や行事、地域に係る行事等との関連

2 指導計画・指導方法に関する研究

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図った指導計画を工夫する。
 - ・各内容における指導のねらいを検討し、表現と鑑賞の能力がともに高められる題材の設定
- (2) 〔共通事項〕の視点を意識できる指導計画を工夫する。
 - ・形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を、意識できる題材の設定や場面設定
- (3) 各学年の内容の「A表現」について、(1)及び(2)と、(3)は関連付けて行い、描く活動とつくる活動が調和的に行える指導計画を工夫する。
 - ・表現活動における発想や構想の能力と、創造的な技能とを関連させることにより相互の能力を高める指導方法
- (4) 各学年の内容の「B鑑賞」の時間を各学年において適切に確保した指導計画を工夫する。
 - ・自分の知識を活用し、自分の中に作品に対する新しい価値をつくりだす指導方法
 - ・効果的な機器の活用や資料の収集・提示方法
 - ・作品について語り合ったり、批評し合ったりする授業形態

3 評価に関する研究

- (1) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる評価を工夫する。
 - ・自己の表現を振り返り、表したい感じの表現を自己確認する自己評価
 - ・互いのよさを認め尊重し合ったり、互いの価値観を出し合ったりする相互評価
- (2) 指導の改善に生かす評価を工夫する。
 - ・一人一人の学習状況を把握し、その都度、個別指導に生かせる評価方法
 - ・題材を通して育てたい資質や能力を明確にし、学習の成果が確認できる評価資料の累積と活用方法
- (3) 効率的・効果的な評価方法を工夫する。

IV 研究方法

- 1 研究計画に基づいた実践を持ち寄って協議し、情報交換をして研究を進める。
- 2 研究の成果を日常の教育実践に生かすとともに、研究の継続と累積に努める。
- 3 中教研の組織を十分に生かす共同研究にし、会員の総意を結集した研究になるように努める。
- 4 小学校との情報交換に努め、互いに連携を深める。
- 5 実技研修会や研究会に積極的に参加するなど、教師としての資質や能力を高め、感性を磨くよう努める。

